

会 議 録

会議の名称	令和5年度 日向圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和6年3月18日（月）14時00分から15時30分まで
開催場所	日向市役所 2階 災害対策本部室
出席者	委員10名ほか、各市町村担当。
議 題	・日向圏域定住自立圏共生ビジョンの見直しについて ・日向圏域各市町村の雇用対策の意見交換
会議資料の名称 及び内容	会次第 資料1 日向市定住自立圏の概要 資料2 日向圏域定住自立圏共生ビジョン 資料3 日向圏域各市町村の雇用対策について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容の要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
1. 開会 課長あいさつ	
2. 委員紹介	
3. 役員選出 会長 日向商工会議所 事務局長 野口洋 様 副会長 門川町商工会 事務局長 岩田一男 様	
4. 協議	
◇協議事項 日向圏域定住自立圏共生ビジョンの見直しについて	
(資料1、2を事務局が説明)	
○委員 P30の「婚活サポート事業」について、日向市と諸塚村が実施しているが、どのような内容の事業が行われているかお聞きしたい。	
●事務局（日向市） 日向市では宮崎結婚サポートセンターの登録料の約半額分5,000円を助成している。	
●事務局（諸塚村） 諸塚村は16地区から1名ずつ、みちゆき推進員を配置している。地域住民が減ってきているなかで、独身者も40代、50代になっている。そのため、村で予算を立てて、村の事業者へ婚活事業を委託した。	

この婚活事業では、村内の独身男性と村外独身女性にて出会いの機会をつくるため、1泊2日の旅行を実施した。

商工会でも、みちゆき支援事業を行っており、補助金を交付している。また、婚活サイトを運営をしているが、その補助もしている。みちゆき推進員については、結婚に結び付いた実績が少ないので、どのようにしたら実績がでるようになるのかの協議を行っていきたい。

●事務局（日向市）

事業費については、日向市が約10万円、諸塚村が約200万円程度となっている。

○委員

昨年12月において、圏域の分娩施設に対する支援制度が決まったかと思うが、共生ビジョンの方には反映する予定はないのか。

●事務局

ビジョンの取りまとめ作業を行ったのが、支援が決まった12月議会の前だったため、今回の産科・分娩施設の支援はビジョンに入れることができなかった。しかしながら、この圏域で分娩に対応できる施設はこの施設だけのため、ビジョンの取り組み事業の対象になるので、関係部署と相談して前向きに対応したい。

○委員（上の質問の続き）

支援は令和5年度限りなのでしょうか。

●事務局

これは日向市東臼杵郡医師会からの要望に対しての補助だったと思う。今後継続していくと聞いており、今回のビジョンから入れてもいいと思う。

○会長

他にご意見はなかったでしょうか。

それでは、協議を終わります。

お諮りします。

ただいま議題となった共生ビジョンについては、これまでに出示された意見等を踏まえた形で、事務局において必要な修正等を行い、実践に向けた取り組みをお願いしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（委員賛同）

ご異議なしと認めます。

なお、文面については、原則、事務局に一任したいと思います。重要な部分があった場合は正副会長を含めて協議することにしたいと思います。よろしいでしょうか。

(委員賛同)

それでは、修正作業につきましては、事務局に一任したいと思います。

◇意見交換

日向圏域各市町村の雇用対策について

(資料3を事務局が説明)

○会長

資料には記載されていないが、日本商工会議所が今年1月に全国525の商工会議所にアンケートを実施しました。現在66%の事業所が人手不足。商工業に関しては業種に関わらず不足している。また、先日の宮崎日日新聞に、2020年と2050年の働き手人口の比較が出ており、日向市では60%、門川町では56%、諸塚村が43%、椎葉村が35.7%、美郷町が41%になるとのこと。ほとんどの地域が現在の働き手より半数以上減ってくる。

一方、都城市は人口が増えているということで、令和5年2月時点で1800人の移住者が来たと聞いております。令和6年度からは移住者を増やすことから、今までに移住した人達が定住するような施策にシフトするような施策を行うとも聞いております。

ここからは、資料に対する質疑などのほか、「うちの地域ではこんな事をしている」「こうした成功事例を聞いたことがある」といった情報や、「こうしたらいいのでは」といったアイデアなど、ざっくばらんにご意見を拝聴したいと思います。

●日向市

日向市は100人ほどが移住してきている。サーフィンを目的に移住されるなど、根強い人気がある。都城市のような多額の移住支援金はないが、移住者は増えてきている。

東京などの移住相談会の際、宮崎県の1番人気は宮崎市と日南市が多かったが、最近は日向市に興味を持ってる方も多くなってきている。

しかし、野口会長も仰ったように、都市部と地方の賃金格差が開いてきており、その中で、いかに日向をアピールしようかということを考えている。

また最近、女性活躍推進について、中小企業の方などどのようにしていけばいいのかと悩んでおられる。今の時代どうしても必要であるが、育児や家庭のことなど、ライフワークバランスを考えると、人を増やさなければならないが、増やすことができない。

地域でも区に入る方も少なくなってきたり、働き盛りの方が少なくなることで高齢化が進み、地域活動もままならないことがある。

○委員

事業所は求人を出すけど応募がない、一番の原因は知名度不足、その企業は何をしているのか地元の方が知らないということがある。また、広域的な問題でもあるため、各自治体主催の企業説明会に近隣自治体の企業が出れるようにしてほしい。

新卒だけでなく、早期離職者にも目を向け、県外から地元に戻ってくる機会に注目して、雇用に結びつける手立てがないか、行政、各団体が協力して取り組んで頂きたい。

●事務局

日向市の雇用創造協議会の就職説明会では日向市以外の企業も参加していた。理由としては日向の人が周辺自治体の企業に働きに行くことも目的としていた。

また、去年は宮崎県北部広域行政事務組合の事業で、広域を対象とした農林漁業就職セミナーを行った。このような機会を活用していただきたい。

●諸塚村

「協同組合もろつかわーく」は村内の8事業者が組合員となっているが、たまたま民間の会社がコンビニエンスストアを経営していたので、そこで1年中働く場所があったという部分が一番大きかった。

現在2名の職員がいるが、2名とも関西からの移住者で協同組合の本格的始動に関してはタイミングが良かった。村としての支援は、農林業、商工業、福祉分野で、例えば林業分野であれば新規就業者の家賃補助（個人と会社両方に支払う）、商工業だと、新規起業すると上限300万の補助金がある。

福祉は数年前に、女性専用の福祉職専用アパートを建築し、1年間で20万円ずつ、5年経ったら最終的には100万円が貰える緊急雇用対策事業をしている。

諸塚村役場の新規採用者にも村内出身者がおらず、村外からの就職となり、家族と諸塚に移住しているケースが非常に多い。村も移住支援金等で対策をしているが、やはり福岡、関東圏域で定年まで働いて、諸塚に土地があるからリターンする移住者が多い。ただ、60歳を過ぎて帰ってきているので、働く場所が自宅近辺での農林業となる。

●椎葉村

人口減少が激しく、子供たちも減っているので出身者だけでは生産年齢人口をカバーできない。都城市のように移住支援金や労働賃金を上げたからと言って、椎葉村に移住する動機にはならない。

そういう観点で選ぶ人は別の自治体に行くと思っているので、私どもは椎葉村に住みたい、究極の田舎暮らしを体験したい、伝統文化を守りたいといった仕事以外の価値観を重視する人をターゲットにしてPRを行っている。

今回特定地域づくり協同組合事業を11月から始めたが、その中でPR動画なども作成した。そこで事業者から自分たちの仕事への思いや村への思いが伝わるようなプロモーションを行った。結果4月から3名移住者として雇用することが決まった。

また、椎葉村出身の子供たちにも帰ってきてもらいたいという思いがあるので、二十歳を祝う会や椎葉村の公式LINEを作っており、そこで広報誌や求人情報などを配信し、いつでも帰りたいと思ったときに、帰りやすい環境を作っている。

○委員

移住される方は、移住される地域を良く調べられている。行政側も良いことばかり、補助金がありますよ、住みやすいですよだけではなく、椎葉村の担当の方が言われたように、村を盛り上げてほしいから移住促進というスタンスをとらないと、移住した際にミスマッチが起きる。この話を聞く時に、頭が痛くなるのが、私みたいな世代である。行政側の方ももっと自分の市町村のことを考えて、移住施策を進めてほしいという思いです。

●美郷町

美郷町も同じように働き手がいなくどの分野も厳しいが、やはり医療介護の現場と建設作業員と農林業に関してはよく話を聞く。

諸塚村、椎葉村の特定地域づくり協同組合について、政策推進室が検討している。他の部署の職員を集めて制度についての勉強会を行ったが、この組合をマネジメントする事務局が見つからない。組合の方もある程度の賃金を設定してもらわないと働く人が集まらないが、中山間地域でそういった賃金を設定するのが難しいということが課題である。この協同組合の枠組みは、移住者やUターン者が働く場所を見つけられる制度としては良いと考えている。

また、移住相談のなかでは、働く場の相談も多い。美郷町は地域おこし協力隊を1人、3年間雇用しており、その方に起業相談をさせていただいている。とても熱心な方で、起業相談を受ける中、村内に焼肉屋が新たにできたり、起業が何件か発生している。ただ、その方が令和5年度に任期満了となるため、議会に提案しその方に令和6年度から委託という形で、これまで同様の起業支援をさせていただくことを考えている。

やはり、地域とうまくいく人でないと地元としては来てほしくないという意見もある。移住者だけでなく、Uターン者であったり、今住んでいる方がそこで楽しく長く暮らす仕組みを皆さんで考えて行くのが一番大事。

●門川町

門川町は情報発信不足という部分大きい。企業紹介用の冊子を令和4年度に作成し、配布した。奨学金の免除など、門川で育った子供たちが帰ってくる制度作りを検討している。

○委員

準看護学校について、高校生の受験状況を見てどんどん入学者が少なくなっている。

最近多く見られる傾向は、新卒者よりも一度社会に出て、家族を持たれた後に、帰ってきて働く場所を見つける方が看護学校に行かれるケースが結構ある。

卒業後は、地域の医療施設や福祉施設に就職される方も多。日向東臼杵地区の準看護学校の授業は午後からになっており、午前中は地域の医療機関で働き賃金を頂きながら、午後から就学するという生徒が8～9割となる。子育てしながら就学できる補助金もあるため、それぞれ各市町村においてもそういう形で進めていただければ、自分たちの市町村に戻ってくることが大いにあると考えているので、PRしてほしい。

○委員

移住されると人口が増えて非常にいいことだと思う。私の地区ではサーファーの方の問い合わせが非常に多い。住まれることは非常に良いことだが、ゴミ出しはルールを守らない、区に加入していただけないなど、地域に馴染んでいただけない。

市の広報もネットで見ることでができ、ゴミはゴミステーションに出せばいつでも持って行ってくれる。区費を払ってまで加入しなくてもという意見がある。地域住民としては、ルールを守って移住していただきたいと強くお願いしたい。

○会長

たくさんのご意見をいただきました。事務局をはじめ、各市町村の担当の皆様には、本日の意見を参考にいただき、引き続き、圏域の活性化に向けて努力していただきたいと思
います。

6. その他

●事務局

今回の定住自立圏共生ビジョンで修正箇所があった場合は、皆様に3月中には完了してお
届けします。移住者が地域に馴染むというところも非常に大事だと思う。

また、各市町村で連携して様々な施策に取り組んでいきたい。

終了